

# 廃プラ洗浄水 汚泥を堆肥化

出口確保と受入量強化へ

農業用フィルムや廃プラスチック類の再資源化で処理実績と技術を持つ黒田工業（宮崎県日向市、☎0982・55・0055）は、

自社のリサイクル工場  
の洗浄工程で発生する  
有機性汚泥の堆肥化事  
業で、今後は出口の確  
保や受入量の拡大を図  
る。バイオマス事業の  
第一弾として位置づけ  
たもので、昨年9月に  
中部エコテック（名古屋  
市）社製の堆肥化装置  
（処理能力4トン/日）  
を導入して稼働を開始  
させていた。

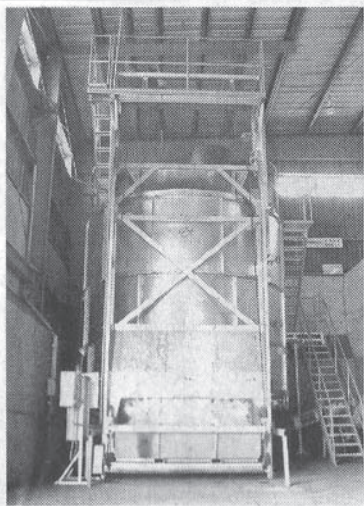
同社は1964年の  
創業以来、「貫して「廃  
棄物のリサイクル」を  
手掛け、特に農業用フ  
ィルムなどの再生処理

では地域に先駆けて取  
り組んできた。200  
7年には産廃・一廃の  
複合型リサイクル施設  
「ひゅうがりサイクル  
センター」を完成。行  
政の広域処理における  
リサイクルプラザとし  
ての機能も持ち、廃プ  
ラスチック類のペレッ  
ト化やRPF製造など  
付加価値の高いシステ  
ムを構築している。

昨年からは始めた有機  
性廃棄物のリサイクル  
については、これまで  
外部に委託してきた廃  
プラスチック洗浄水の  
余剰汚泥の処理を自社  
内でできるよう1年以  
上かけて検討を進めて  
きた。国内外の事例を  
総合的に調査・比較し  
て堆肥化装置の選定な

を始めた。国内の事例を  
総合的に調査・比較し  
て堆肥化装置の選定な

導入している堆肥化装置



どを行い、同センター  
内で稼働させることを  
決めた。

は、「もともとバイオ  
マスは、農業用フィル  
ムなどの処理を通じて  
関連性が強い分野。業  
範囲を拡大していく中  
で、県内の食品工場な  
どから排出される有機  
性の残渣や汚泥の受け  
入れを見込んでいた。

現在ではテスト期間と  
して、同装置に1日当  
たり800kgの有機性  
汚泥を投入し、攪拌・  
発酵の工程を経て堆肥  
を製造している。分析  
試験が済み次第、汚泥  
堆肥として登録し、地  
元農家などへの提供を  
始めていく考えだ。

将来的には、家庭系生  
ごみのリサイクルにも  
貢献していきたい」と  
話している。

同社の川崎修工場長

話している。